

令和 2 年度日本自然災害学会オープンフォーラム

概要

「平成 28 年熊本地震からの復興～これまでの取り組みと今後の課題～」

日時：2021 年 3 月 21 日（日）10:00～12:00

会場：・国立大学法人 熊本大学南キャンパス 工学部百周年記念館

・オンライン（ZOOM ミーティングと YouTube Live 配信）

内容：2021 年 4 月に平成 28 年熊本地震から 5 年目を迎える被災地の様子や 5 年間の取り組み、これから取り組むべき課題について、行政、大学、報道の様々の視点で意見交換された

講演内容

【第 1 部 講演】

・「平成 28 年熊本地震からの創造的復興」

上野晋也（熊本県土木部部長）

熊本県は熊本地震の「創造的復興に向けた重点 10 項目」を掲げており、そのうち「すまいの再建」、「阿蘇へのアクセスルートの回復」、「益城町の復興まちづくり」、「八代港のクルーズ拠点の整備」について主に報告があった。

・「復興とまちづくり」

柴田 祐（熊本県立大学教授）

熊本地震からこれまでの地区単位のまちづくりに取り組みとその意義について紹介された。ハード整備が終了した後のまちづくりについては「人口減少を前提としたまちづくり」や「人口を指標としないまちづくり」が必要であるとの話であった。

・「社会につなぐ、時代をつなぐ」

小多 崇（熊本日日新聞編集局編集委員室編集委員兼論説委員）

熊本地震や令和 2 年 7 月豪雨のデータを見ると、高齢者の犠牲者の割合が多くを占めていることがわかり、災害が多発する中で日本社会の構造を理解し、被害の実態を冷静に見る必要があるとの指摘があった。

・「熊本大学における伝承の取り組み」

山尾敏孝（熊本大学名誉教授）

熊本大学デジタルアーカイブ室を設置し、最初の 2 年はデジタルアーカイブシステム「ひのくに災史録」の構築に力を入れ、その後活用をしていくために TERADA という活動チームを結成した。活動の一つとして、学生へのアンケート調査から、学内に伝承看板を設置することにした、との報告があった。

【第 2 部 パネルディスカッション】

○登壇者

講演者 4 名

○コーディネーター

田中尚人（熊本大学熊本創生推進機構准教授）

○司会進行

竹内裕希子（熊本大学先端科学研究部准教授）

○内容

パネルディスカッションは登壇者が他の登壇者に質問を投げかける形式で行われ、「合意形成」、「公共事業とまちづくり」、「継承と教訓」、「デジタルアーカイブの活用」について主に意見が交わされ、最後に田中准教授により「ハードでもソフトでも作って終わりという時代ではなくなっている。使い続けていく、作り続けていくことが大切であり、好ましい変化は許容していかなければならない。また、その変わり続けていくことを誰かに任せるのではなく、自分事にして続けていく必要がある。」との言葉で締めくくられた。



パネルディスカッション

※日本自然災害学会誌 vol. 40, No. 1 にも報告が掲載されています。